

ジェット気流の発見－大石和三郎と C.G.ロスビー

(16) 憧憬

1952年4月、ロスビーはストックホルムの自宅からチャーニーへ長文の手紙を送った (Rossby, 1952)。最後の段落では、家族への温かいまなざし、自然への感謝、これからの人生への若干の不安と情熱が記述されている (図 15)。

要約すると次のようである。

「今、午前5時30分にデスクに向かっている。街の上に太陽が昇るのが見えた。空は晴れ渡り、

家族はまだ寝ていて、隣の部屋でトミーの寝息が聞こえる。見えるもの聞こえるもの全てが地球上の出来事であり、うまく回っている。私は休息が必要になり、その時が訪れるのを神に祈っている。科学的な言い方をすれば、私はだれかの顎をひっぱたいで外出したい気がする。あなたは、私が回復しているのが分かるでしょう。」(ここで「回復する」という言葉は、ロスビーがときどき抱えていた心臓病を指している可能性が考えられている。)

1957年8月に、ロスビーは58年間の生涯を閉じた。その後、ベルシエロン(1958)、バイヤーズ(1960)、フィリップス(1998)、ゾリン(2015)らが、ロスビーの業績を称え人物を愛しみ追悼文を発表している(本連載では、これらのうちフィリップスの著作を中心に引用)。不思議な事だが、どの追悼文にもロスビーの死因について記載が見当たらなかった。そこでネット情報を検索すると、MIT Newsに行き着いた。そこで分かったのは、心臓発作で死亡したことと、突然の訃報に彼を知る誰もが驚いたことである。

MIT Newsのヘッドライン(末尾の「メディア情報」を参照)を読めば、ロスビーのアメリカでの活躍がどれほど国民に受け入れられていたか知ることができる。その重要な部分が第2次世界大戦の勝利へアメリカを導いたこと、という行に驚きさえする。戦争と気象がそれほど密接かつ重要な関係にあったことを、改めて認識する他はない。そしてロスビーの人物像には、*bon vivant* という呼称が与えられて

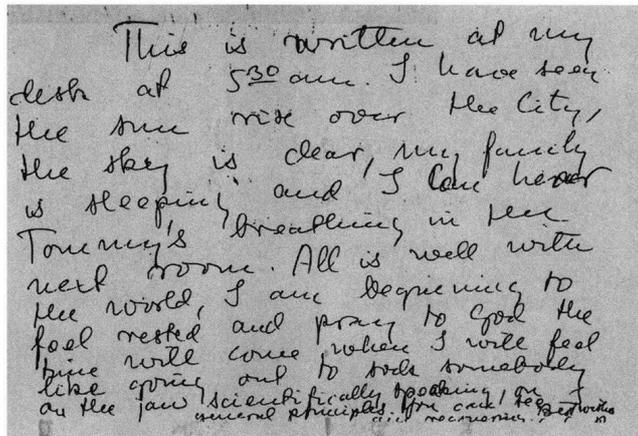


FIG. 12. Closing paragraph from a letter of April 1952 from Rossby in Stockholm to Jule Charney in Princeton.

図15 1952年4月にロスビーがストックホルムからプリンストンのチャーニーへ送った手紙の最後の部分



C.G. Rossby

図16 C.G.ロスビーの肖像
(H. バイヤーズ[1960]より引用)

いる。この呼称の意味をわざわざ解説するのは、それこそヤボというものである。

バイヤーズの追悼文に掲げられたロスビーの肖像を図16に示す。少し微笑むロスビーは、右手を腰に、左手に紙巻きたばこを持ち、傍らに回転水槽の模型が置かれている。彼の他の写真を見ると、パイプを持っているものが馴染み深い。終生の愛煙家であったと思われる。

死の直後、スウェーデン・アカデミーを代表してベルシェロンが書いた、憧憬にも似た追悼文は、次のとおりである。「現代の気象学において、C.G. ロスビー以前には、彼ほど科学者としての業績と人格に極めて強い印象を残し

た者はいなかった。この分野には、彼よりも学識のある理論家や革新家もいたかも知れない。しかし、彼は広範な分野で素晴らしい贈り物を世に残した。そして彼は、実用的な気象学の発展のためにこそ賢く、稀な能力を発揮した。例えるなら、真の先駆者であり、新しい土地を耕して自身の家を建て、周囲が賑わい始めると静かな故郷に戻った。彼の全キャリアを通じて関りをもった人たちは、忠実で頼りがいのある、また常に励みになる友人と認めて接した。彼の伝染性ともいえる情熱とそれに裏付けされた個人的な魅力を、誰も拒むことはできなかった。リーダーとして、自分自身が描いた価値の実現のために、どんな人間も味方にするのができた。そしてなによりも、穏やかな態度で議論を投げかける姿がそこにあった。(Bergeron, 1958)」

参考資料

1. Rossby, C.G.: Letter to Jule Charney, dated 16 April 1952. Jule G. Charney Papers, MCI84, Institute Archives and Special Collections, MIT Libraries, Cambridge, MA., 1952
2. Bergeron, T.: Carl-Gustaf Rossby, Obituary. *Kungl. Vetenskaps-Societetens Arsbok*, Stockholm, 17-23, 1958 (in Swedish)
3. Byers, H.B.: Carl-Gustaf Arvid Rossby 1889-1957. Biographical Memoir, *National Academy of Sciences*, 249-270, 1960
4. Sorlin, S.: A tribute to the memory of Carl-Gustaf Rossby 1898-1957. *Presented at the 2015 Annual Meeting of the Royal Swedish Academy of Engineering Sciences*, 66p, 2015

5. Phillips, N.A.: Carl-Gustaf Rossby: His times, personality, and Actions. *Bull. Amer. Meteorol. Soc.*, 79, 1097-1112, 1998

Media 情報

1. MIT News "Wind, war and weathermen - How a Swedish bon vivant let MIT introduce modern meteorology to America - just in time to help the Allies win World War II.": <http://news.mit.edu/2011/timeline-forecasting-0607>
2. *bon vivant*: 趣味、知性、洗練され好ましく、恋人も敵も落とすほど、粋でファッショナブルな男性のこと。現代風には、クールな男性と言えるだろう。